



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年10月29日

上場会社名 日本ライフライン株式会社 上場取引所 東
コード番号 7575 URL <https://www.jll.co.jp>
代表者 （役職名） 代表取締役社長CEO （氏名） 鈴木 啓介
問合せ先責任者 （役職名） 取締役常務執行役員CFO （氏名） 江川 毅芳 TEL 03-6711-5200
半期報告書提出予定日 2025年11月14日
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	29,285	4.6	6,620	5.7	6,624	7.4	4,774	7.7
2025年3月期中間期	27,985	11.4	6,260	14.4	6,167	9.7	4,435	10.0

（注）包括利益 2026年3月期中間期 4,667百万円（△0.3%） 2025年3月期中間期 4,680百万円（11.8%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	68.08	68.08
2025年3月期中間期	61.87	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	75,274	60,977	81.0
2025年3月期	75,123	59,914	79.8

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 60,965百万円 2025年3月期 59,914百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	53.00	53.00
2026年3月期	—	0.00			
2026年3月期（予想）			—	54.00	54.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	59,300	4.8	12,900	4.7	13,000	5.4	9,350	0.3	133.30

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期中間期	71,300,000株	2025年3月期	75,758,470株
② 期末自己株式数	2026年3月期中間期	1,143,752株	2025年3月期	5,661,667株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年3月期中間期	70,129,451株	2025年3月期中間期	71,683,209株

（注）当社は、役員報酬BIP信託を導入しており、信託が所有する当社株式は「（4）発行済株式数（普通株式）」において自己株式として取り扱っています。

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 中間連結貸借対照表	6
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	9
3. その他	10
生産、受注及び販売の状況	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間末現在において当社グループが判断したものです。

(経営環境について)

当社グループは主に国内の総合病院等の顧客向けに心臓領域を中心とする医療機器事業を展開しています。日本の医療需要は、人口の高齢化に伴い増加しており、今後もそのトレンドは継続することが予想されています。一方、医療供給はひっ迫しており、各種医療サービスの持続可能性が懸念されています。国は、現行の医療システムが医療従事者の慢性的な長時間労働に依存している状況を改善するため、「医師の働き方改革」を推進しています。

このような状況において、医療機器業界で厳しい競争に勝ち残るには、単に治療効果の高い製品を提供するだけでなく、持続可能な医療を実現するための様々な課題の解決にも貢献していく必要があります。当社グループは、メーカーと商社の2つの機能を併せ持つ強みを活かし、柔軟かつ強靱なプロダクト・ポートフォリオを構築することで、これに取り組んでいます。

(事業の状況について)

当中間連結会計期間における業績は、前年同期比で売上高は4.6%増加、売上総利益は3.5%増加、営業利益は5.7%増加、親会社株主に帰属する中間純利益は7.7%増加となりました。保険償還価格の改定(2024年6月)や、他社が推進している心房細動の新しい治療法であるパルス・フィールド・アブレーション(PFA)の急速な普及など、事業環境が大きく変化する中で、中期経営計画(2024年3月期から2028年3月期までの5年間)で重点施策として掲げている「競争力ある製品の継続的導入」と「新領域の拡大」を着実に推進いたしました。その結果、業績はほぼ期初の予想通りに進捗しました。

中核事業のEP/アブレーションおよび心血管関連は、コア製品群の成長により、それぞれ前年同期比4.1%増収、5.0%増収と堅調に推移しました。EP/アブレーションでは、心房細動のアブレーション症例数の増加を背景に、心腔内除細動カテーテルの販売が好調に推移しました。大腿静脈用止血デバイスも新規採用施設の開拓が順調に進みました。心血管関連では、Frozen Elephant Trunk(FET)が市場拡大に伴い堅調に推移しました。

成長事業の新領域においては、製品ラインナップの拡大により販売数量が増加し、脳血管関連は前年同期比で48.4%増収、消化器は15.7%増収^{*1}となりました。

安定事業のリズムデバイスも、ペースメーカの低迷等により前年同期比で0.9%減収となりました。

販売費及び一般管理費は、人件費や研究開発費等が増加した一方で、貸倒債権の一部回収による貸倒引当金の戻入があったこと等により、前年同期比234百万円の増加となりましたが、販売数量の増加でその影響を吸収しました。その結果、当中間連結会計期間の営業利益は前年同期比359百万円の増加となり、営業利益率は22.6%となりました。

なお、為替相場の変動が当社の業績に与える影響は限定的であると認識しています。これは当社の商品仕入の約75%が円建てであることに加え、売上原価の計算に移動平均法を用いており、一時的な調達コストの上昇があってもその影響は長期間にわたって平準化されるためです。

^{*1} 終了事業のコロナリー・インターベンションを含む。これを除くベースでは前年同期比25.0%増収

(業績について)

当中間連結会計期間の業績は以下のとおりです。

(単位：百万円)

区分	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)		当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)		増減	増減率 (%)
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)		
① 売上高	27,985	100.0	29,285	100.0	1,299	4.6
② 売上総利益	16,963	60.6	17,557	60.0	593	3.5
③ 営業利益	6,260	22.4	6,620	22.6	359	5.7
④ 経常利益	6,167	22.0	6,624	22.6	456	7.4
⑤ 親会社株主に帰属する 中間純利益	4,435	15.8	4,774	16.3	339	7.7

① 売上高

売上高は29,285百万円(前年同期比+4.6%)となりました。詳細は後段の「品目別売上高」に記載しています。

② 売上総利益

売上総利益は17,557百万円(前年同期比+3.5%)となりました。2024年6月に保険償還価格が改定されたことで販売単価下落の影響が前年同期比で2か月分ありましたが、中核事業および成長事業における販売数量の増加でその影響をカバーしました。

売上総利益率は60.0%(前年同期比△0.6pt)となりました。上記の販売単価の下落に加え、製品ミックスの悪化が影響しました。なお、自社製品比率は55.1%(前年同期比△2.5pt)となりました。

③ 営業利益

営業利益は6,620百万円(前年同期比+5.7%)、営業利益率は22.6%(前年同期比+0.2pt)となりました。販売費及び一般管理費は、前年同期比で234百万円増加しました。主な増減要因は以下のとおりです。

(増加)

- ・給与水準の引上げによる人件費の増加
- ・PFAシステムの開発等に係る研究開発費の増加
- ・営業活動量の増加に伴う販売関連費の増加

(減少)

- ・貸倒債権を一部回収したことによる貸倒引当金戻入の計上(前期に取引先の手形取引停止処分により貸倒引当金繰入を計上)

④ 経常利益

経常利益は6,624百万円(前年同期比+7.4%)となりました。営業外収益として、受取利息や受取配当金などで95百万円を計上しました。また、営業外費用として、為替差損や投資有価証券評価損などで90百万円を計上しました。

⑤ 親会社株主に帰属する中間純利益

親会社株主に帰属する中間純利益は4,774百万円(前年同期比+7.7%)となりました。法人税等の負担率は27.5%(前年同期比△0.7pt)となりました。

(品目別売上高)

(単位:百万円)

区分	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)	増減	増減率 (%)
リズムデバイス	6,725	6,666	△59	△0.9
EP/アブレーション	14,123	14,707	583	4.1
心血管関連	5,656	5,936	280	5.0
脳血管関連	800	1,187	387	48.4
消化器	680	787	107	15.7
合計	27,985	29,285	1,299	4.6

※ 各品目区分に分類される主たる商品は以下のとおりです。

リズムデバイス	心臓ペースメーカ、T-ICD(経静脈植込み型除細動器)、S-ICD(完全皮下植込み型除細動器)、CRT-P(両心室ペースメーカ)、CRT-D(除細動機能付き両心室ペースメーカ)、AED(自動体外式除細動器)、リードマネジメントデバイス
EP/アブレーション	EP(電気生理用)カテーテル、アブレーションカテーテル、内視鏡レーザーアブレーションカテーテル、心腔内除細動カテーテル、食道温モニタリングカテーテル、スティーラブルシース、大腿静脈用止血デバイス
心血管関連	人工血管、Frozen Elephant Trunk、ステントグラフト、心房中隔欠損閉鎖器具
脳血管関連	塞栓用コイル、血栓吸引カテーテル、マイクロカテーテル、ステントリトリバー
消化器	胆管チューブステント、胆管拡張バルーン、造影カニューラ、ダブルルーメンダイレクタ、胆道鏡システム、内視鏡ガイドワイヤー、大腸用ステント、胃・十二指腸用ステント、肝臓治療用ラジオ波焼灼電極針

① リズムデバイス

リズムデバイスの売上高は、6,666百万円(前年同期比△0.9%)となりました。ペースメーカーは、他社のリードスペースメーカーが市場シェアを伸ばしたことにより、低調に推移しました。一方、コア製品のS-ICDは、他社の新製品の影響を若干受けつつも販売台数を順調に伸ばし、堅調に推移しました。また、2025年5月よりフィリップス社のリードマネジメントデバイスを販売開始したことも寄与しました。

② EP/アブレーション

EP/アブレーションの売上高は、14,707百万円(前年同期比+4.1%)となり、上期として過去最高を更新しました。心房細動のアブレーション症例数が前年同期比10%程度増加した(当社推定)ことに伴い、コア製品の心腔内除細動カテーテルの販売数量が増加しました。さらに、大腿静脈用止血デバイスの新規市場の開拓も順調に進捗しました。一方、他社が推進している心房細動の新しい治療法であるPFAの浸透を受け、食道温モニタリングカテーテルを含む一部のEPカテーテルは低調に推移しました。

③ 心血管関連

心血管関連の売上高は、5,936百万円(前年同期比+5.0%)となりました。コア製品のFrozen Elephant Trunkは、販促施策として製品を使った手技トレーニング企画等に注力した結果、高い市場シェアを維持し、堅調に推移しました。また、当第2四半期連結会計期間から構造的な疾患領域における新商品として、TAVI用のセンサー付きガイドワイヤーの販売を開始したことも寄与しました。さらに、Heartseed社向けに再生医療等製品の投与カテーテルシステムを納入したことも寄与しました。

④ 脳血管関連

脳血管関連の売上高は、1,187百万円(前年同期比+48.4%)となりました。血栓吸引カテーテルは、新たに導入した末梢血管向けのモデルが販売を大きくけん引しました。前第3四半期連結会計期間からフルリリースしたステントリトリバーも安定した立ち上がりとなりました。塞栓用コイルは、放射線科向けモデルの導入に伴い販売先を拡大したことが奏功し、堅調に推移しました。

⑤ 消化器

消化器の売上高は787百万円(前年同期比+15.7%)となりました。2024年3月期で終了したコロナリー・インターベンション事業を除いたベースでの売上高は747百万円(前年同期比+25.0%)となりました。胆管チューブステントは、第1四半期連結会計期間に導入した新モデルの臨床評価が良く、販売は想定を上回るペースで推移しました。その他、内視鏡ガイドワイヤーや胆管拡張バルーンなどの製品も、堅調に推移しました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(中間連結貸借対照表に関する分析)

① 資産

当中間連結会計期間末の資産につきましては、流動資産が前連結会計年度末に比べ488百万円増加し、44,824百万円となりました。これは主として、配当金の支払い、法人税等の支払いにより現金及び預金が1,384百万円減少した一方で、受取手形及び売掛金が604百万円、棚卸資産が1,184百万円、それぞれ増加したことによるものです。

また、固定資産は前連結会計年度末に比べ336百万円減少し、30,450百万円となりました。これは主として、投資その他の資産のうちその他に含まれている敷金・保証金が288百万円増加した一方で、同じく投資その他の資産のうちその他に含まれている長期前払費用が276百万円、繰延税金資産が219百万円、それぞれ減少したことによるものです。

以上の結果、資産合計は前連結会計年度末から151百万円増加し、75,274百万円となりました。

② 負債

当中間連結会計期間末の負債につきましては、流動負債が前連結会計年度末に比べ756百万円減少し、13,577百万円となりました。これは主として、賞与引当金が208百万円、その他に含まれている未払費用が180百万円、それぞれ減少したことによるものです。

また、固定負債は前連結会計年度末に比べ154百万円減少し、719百万円となりました。これは主として、役員株式報酬引当金が85百万円、その他に含まれている長期未払金が34百万円、それぞれ減少したことによるものです。

以上の結果、負債合計は前連結会計年度末から911百万円減少し、14,297百万円となりました。

③ 純資産

当中間連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1,063百万円増加し、60,977百万円となりました。これは主として、親会社株主に帰属する中間純利益を4,774百万円計上した一方で、剰余金の配当を3,722百万円実施したことによるものです。

(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する分析)

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ1,384百万円減少し、9,630百万円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

当中間連結会計期間における営業活動による資金の増加は、3,495百万円(前年同期は2,938百万円の収入)となりました。これは主として、税金等調整前中間純利益が6,582百万円あった一方で、キャッシュ・フローの減少要因として、売上債権の増加が606百万円、棚卸資産の増加が1,187百万円、法人税等の支払額が1,543百万円となったことによるものです。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

当中間連結会計期間における投資活動による資金の減少は、1,023百万円(前年同期は424百万円の支出)となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出が672百万円となったことによるものです。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

当中間連結会計期間における財務活動による資金の減少は、3,880百万円(前年同期は7,187百万円の支出)となりました。これは主として、配当金の支払額が3,718百万円となったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間連結会計期間の業績は、ほぼ期初予想に沿う形で順調に進捗しました。リズムデバイスと消化器は、期初の想定に対してややスローな進捗となったものの、脳血管関連や心血管関連の好調でこれをカバーしました。EP/アブレーションは、PFAの浸透により一部の製品の減収が想定より厳しくなりましたが、心腔内除細動カテーテルや大腿静脈用止血デバイスなどのコア製品が想定を上回り、全体としては堅調でした。

下半期以降も、販売は堅調に推移する見通しであり、費用の執行も、おおむね計画どおりを見込んでいます。したがって、2026年3月期の通期の連結業績予想(2025年5月7日公表)については、現時点で変更はありません。業績予想の修正が必要になった場合には、速やかにお知らせします。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,014	9,630
受取手形及び売掛金	13,830	14,435
棚卸資産	17,961	19,146
その他	1,529	1,612
流動資産合計	44,336	44,824
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,995	6,771
その他(純額)	6,289	6,373
有形固定資産合計	13,285	13,145
無形固定資産	1,910	1,724
投資その他の資産		
投資有価証券	7,374	7,563
長期貸付金	2,691	2,682
退職給付に係る資産	405	377
その他	6,871	6,501
貸倒引当金	△1,753	△1,544
投資その他の資産合計	15,590	15,581
固定資産合計	30,786	30,450
資産合計	75,123	75,274
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,358	4,455
短期借入金	3,500	3,500
1年内返済予定の長期借入金	120	60
未払金	947	840
未払法人税等	1,703	1,768
賞与引当金	1,946	1,738
役員賞与引当金	79	21
その他	1,678	1,193
流動負債合計	14,334	13,577
固定負債		
役員株式報酬引当金	164	78
その他	709	640
固定負債合計	874	719
負債合計	15,208	14,297
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,115	2,115
資本剰余金	8,888	4,418
利益剰余金	53,455	54,507
自己株式	△5,784	△1,208
株主資本合計	58,675	59,833
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△32	84
為替換算調整勘定	788	666
退職給付に係る調整累計額	483	380
その他の包括利益累計額合計	1,239	1,131
新株予約権	—	12
純資産合計	59,914	60,977
負債純資産合計	75,123	75,274

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

(中間連結損益計算書)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	27,985	29,285
売上原価	11,022	11,727
売上総利益	16,963	17,557
販売費及び一般管理費	10,703	10,937
営業利益	6,260	6,620
営業外収益		
受取利息	37	59
受取配当金	34	28
貸倒引当金戻入額	5	—
その他	12	8
営業外収益合計	89	95
営業外費用		
支払利息	18	18
投資有価証券評価損	10	19
為替差損	50	25
貸倒引当金繰入額	—	3
支払手数料	64	7
その他	36	16
営業外費用合計	181	90
経常利益	6,167	6,624
特別利益		
固定資産売却益	7	0
投資有価証券売却益	20	—
特別利益合計	27	0
特別損失		
固定資産売却損	1	—
固定資産除却損	14	42
特別損失合計	15	42
税金等調整前中間純利益	6,179	6,582
法人税、住民税及び事業税	1,571	1,608
法人税等調整額	173	199
法人税等合計	1,744	1,807
中間純利益	4,435	4,774
親会社株主に帰属する中間純利益	4,435	4,774

(中間連結包括利益計算書)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	4,435	4,774
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△56	116
為替換算調整勘定	319	△121
退職給付に係る調整額	△17	△102
その他の包括利益合計	245	△107
中間包括利益	4,680	4,667
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	4,680	4,667

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	6,179	6,582
減価償却費	861	814
長期前払費用償却額	159	159
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	211	△208
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△90	△208
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△21	△58
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△59	△112
役員株式報酬引当金の増減額 (△は減少)	△25	△85
受取利息及び受取配当金	△71	△87
支払利息	18	18
固定資産除売却損益 (△は益)	8	42
投資有価証券評価損益 (△は益)	10	19
投資有価証券売却損益 (△は益)	△20	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△584	△606
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,684	△1,187
未収入金の増減額 (△は増加)	18	△63
仕入債務の増減額 (△は減少)	△563	97
未払消費税等の増減額 (△は減少)	331	△104
未払費用の増減額 (△は減少)	△150	△180
その他	△49	188
小計	4,476	5,019
利息及び配当金の受取額	45	37
利息の支払額	△18	△18
法人税等の支払額	△1,564	△1,543
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,938	3,495
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△802	△672
無形固定資産の取得による支出	△27	△26
固定資産の売却による収入	15	0
投資有価証券の取得による支出	△637	△40
投資有価証券の売却による収入	1,023	—
長期貸付けによる支出	△4	△3
長期貸付金の回収による収入	7	5
その他の支出	△1	△407
その他の収入	2	119
投資活動によるキャッシュ・フロー	△424	△1,023
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	1,500	—
長期借入金の返済による支出	△234	△60
自己株式の取得による支出	△5,225	—
リース債務の返済による支出	△74	△101
配当金の支払額	△3,154	△3,718
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,187	△3,880
現金及び現金同等物に係る換算差額	52	24
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△4,621	△1,384
現金及び現金同等物の期首残高	12,669	11,014
現金及び現金同等物の中間期末残高	※1 8,047	※1 9,630

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の消却)

当社は、2025年5月7日開催の取締役会決議に基づき、2025年5月16日付けで4,458,470株の自社株式の消却を行いました。この結果、当中間連結会計期間において、資本剰余金および自己株式がそれぞれ4,469百万円減少しました。

なお、当中間連結会計期間末において、資本剰余金が4,418百万円、自己株式が1,208百万円となっています。

(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

※1 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりです。

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
現金及び預金勘定	8,047百万円	9,630百万円
現金及び現金同等物	8,047百万円	9,630百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

当社および連結子会社の営む事業は医療用機器の製造および販売業であり、また、主な販売先は国内に所在しています。当社および連結子会社の構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定および業績を評価するために定期的に検討を行う対象として報告セグメントとすべきものはありません。

当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

当社および連結子会社の営む事業は医療用機器の製造および販売業であり、また、主な販売先は国内に所在しています。当社および連結子会社の構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定および業績を評価するために定期的に検討を行う対象として報告セグメントとすべきものはありません。

3. その他

生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

当中間連結会計期間における生産実績を商品区分別に示すと次のとおりであり、著しい変動はありません。

(単位：百万円)

区分	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)	増減率 (%)
リズムディバイス	10	5	△50.3
EP/アブレーション	3,176	3,132	△1.4
心血管関連	769	836	8.7
消化器	366	384	4.9
合計	4,323	4,358	0.8

(注) 1. 金額は製造原価によります。

2. 「脳血管関連」の生産実績は前期、当期ともに発生していないため表示を省略しています。

② 受注実績

当社グループの事業形態は、原則として受注残高が発生しないため、記載を省略しています。

③ 販売実績

販売実績につきましては、添付資料2ページ「1. 経営成績等の概況(1) 当中間期の経営成績の概況」をご覧ください。